

顎関節と首の骨の関係（その2）

脳脊髄液は第3脳質で1日300cc~500cc産生されるものです。そして古いものから血液を通して排出されるものです。この脳脊髄液は頭とおしりの仙骨の間を行ったり、来たりするものです。

海の1つの波が沖から岸へ又岸から沖へ戻る様に健康な人は1分間に11往復するものです。死の直前の人は4回位抗癌剤、覚醒剤等の異物として強過ぎる薬物はおしりの仙骨迄たどりつかなく途中でユーターンする為に多い人では20~30回位往復するものです。但し測る位置は頭の後の骨と首との境目の首の骨をはさんで両手の指で4指・4指で拍動を感じるものです。

血液の拍動はハッキリとわかりますが脳脊髄液の拍動は弱くニヨロニヨロ…ニヨロニヨロ…という位で熟練をしないとわからないものです。

脳脊髄液は神経に栄養を与えるという位に大切なもので脳脊髄液がたどりつかない脊骨の部位からその脊髄と関係のある内臓はすべて弱ってしまうものです。

脳脊髄減少症は顎関節症の人に強い外的要因が加わった為に症状が大きくなったという事です。

顎関節症の初期の人は首の骨は直となり体の片側半分は血流が悪く、体の片側が固くなっているものです。

むちうちになりやすいものです。

ところがさらにひどくなりますと首の骨は後方湾曲をおこし硬膜の撃張をおこし全身の血流が悪く、各骨はおとし穴にはまった状態の様に動きが悪くなり、そこに外的要因が加わって硬膜が傷つき脳脊髄液が漏れやすくなるものです。例をあげれば竹と木との違いです。首の骨が生理的な前方湾曲しているのが竹で後方湾曲しているのが木で強い風雪でも竹はグニャッと曲がりますが、木は折れたりするものです。

それでは首の後方湾曲した原因はその病気に合うが患者の体に合わない薬に服用のか、又は歯の矯正治療をしたが頭蓋骨にズレをおこしたのか、又は上下の歯の咬み合せの高さが高過ぎたのか低過ぎたのか、又は歯のインプラントを埋め込んだのか埋め込んだ為に咬んで衝撃を加わったのか又はチタンという金属は電磁波を集める性質がある為に蛍光灯とか電気製品から出る電磁波又は最近の自動車には電子機器が入っている為に電磁波が出るものです。また、チタンと同族の金属を身につけていますと必ず首の骨は後方湾曲になるものです。首の骨が前方湾曲している人が弱い電磁波ではなんともないが強い電磁波では首の骨が後方湾曲になるものですがその電磁波から離れれば又元の正常な前方湾曲に戻るものです。

首の骨は後方湾曲していますと神経伝達システムの不良ともいわれるものです。

例をあげれば仮に正常な人の左奥歯の歯だけを咬み合せを高くしますと左頭頂骨の奥が上に上がるものです。

又頭の後頭骨の後方が後にズレをおこし、耳の周囲の骨又は顎関節のメス側の側頭骨は左側から見ると時計の針と同じ方向に回転の捻れをおこし首の骨も背骨も同じです。

背骨又は胴体部の下部が左側が後に膨らむかそれと関係する背骨が左側が後回転するものです。但し左の胴体の腎臓部が膨らみますと反対側の右の腎臓がへこみます。

そこで右の腎臓に痛みを感じるものです。

右の腎臓は背骨の上から 12 番目の骨が前方にズレをおこすものです。

そして骨盤の足のつけ根の骨である腸骨は頭蓋骨の左側の側頭骨と全く同じ様捻れ回転をおこすものです。

そして左の股関節の足側の大腿骨は左側の奥歯が高い為に後方にズレをおこし左足は X 脚の状態になるのです。そして左足のヒザの脛骨は後方にズレ、そして左足の親指の関節の部分が伸び、右足の裏の前寄りに異常反応がおこりますが首の後方湾曲では歯の咬み合せと体全体のズレ及び血流との関係は全く無反応となり、ただ体全体のズレ捻れをおこしたそのままの上下の歯を咬み合わせる事となるものです。

頭蓋骨がズレ捻れをおこしても関係なしに首の後方湾曲の状態での歯の咬み合せの調節は歯の低いところを高くする事は出来なく、どんどん歯を削って低くしながらバランスをとろうとする為にますます体を悪くするものです。

特に奥歯の歯の咬み合せが低くなりますと脚は O 脚となり足首もくの字の O 脚となり血流が悪いが故に関節部分が固くなり、足はあがらなくなり引きずって歩くものです。

逆に奥歯が高くなりますと足は X 脚となりクローン病の様な状態になり、小腸、肺に異常をおこすものです。小腸が異常をおこす為に鼻水が出やすくまた肺に異常をおこす為に眼が疲れやすくなるものです。そして姿勢は前かがみとなり、特に女性はハイヒールの靴ははけないものです。

首の骨が前方湾曲しているのか後方湾曲しているのか確認する為には下顎を片側横イッパイ動かしますと反対側の足が短くなるものです。そしてその逆も同じです。側頭骨の乳様突起を触れば足が短くなった反対側の乳様突起が上にあがるものです。

又足踏みの状態で片足だけヒザを 90 度位曲げますとその側の乳様突起が上にあがるものです。

これで首の骨が正常である前方湾曲しているのです。この反応がなければ後方湾曲、片側だけの反応ですと首の骨は直となっているものです。

病人は必ず首の骨は後方湾曲している為に全身の血流が悪く治癒力が低下するものです。

1 つ例をあげますと背骨の上から下迄の間に数箇所の捻れ又は前方、又は後方のズレがありまますと背骨から神経が内臓に走っている為に関係のある内臓に異常をおこしているものです。

この背骨の数箇所の捻れ、ズレは頭のテッペン骨である頭頂骨の捻れ又その下の脳の血流の異常等をそのままに写し出した様な反応するものです。

背骨の上部の捻れは頭頂骨の前部及びその下の脳に背骨の下部は頭頂骨の後部及び脳

の後部に異常をおこしているものです。

複数の背骨の捻れ、ズレをおこしていますと口の中の歯の咬み合せの 1 ヶ所か 2 ヶ所の部位を高くするか、低くするかで複数の背骨の捻れ、ズレは一瞬に消失するものです。当然頭頂骨、大脳の異常反応、複数の内臓の異常反応が消えるものです。但し歯の矯正治療をした人はこの通りにはいかないものです。そして又なにごとも首の骨を生理的な前方湾曲に治した上での事です。そして足踏みをしますと体が軽く足も上に上がりやすくなり、血流もよくなった事を意味します。